

「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築～」プロジェクトの論点

【国際的背景】金融危機の反省から、短期主義は正やガバナンス強化、企業と投資家の対話（エンゲージメント）、企業開示・報告の見直しが世界的な議論に

- EU: 長期投資促進や企業と株主の対話促進の政策検討。英国「ケイ報告（Kay Review）」は企業の長期業績向上のための資本市場のあり方を分析・提言
- 米国: 「アクティビスト」の台頭等を背景に、株主と経営陣の対話のあり方やガバナンスが大きな議論に
- 財務報告に関する「開示フレームワーク」、非財務情報も含む「統合報告」など開示・報告の国際的枠組みの検討が本格化

【本プロジェクトの目的】

企業が持続的に成長するための競争力強化に向けた課題とそれを支える資本市場のあり方を検討し、提言をとりまとめ

【検討のポイント】

- ① 投資環境全体を鳥瞰: 企業経営者、投資家、市場関係者の三者が一堂に会し、共通理解と対話を深めつつ議論
 - ② 日本の文脈での議論: 国際的な議論・論点を念頭に置きつつ、「日本の論点」を明確化
 - ③ 世界との対話: 海外の機関投資家を含む世界の関係者に対し、検討の各プロセスで問いかけ、発信、対話を実施
- ➡ 14の論点について、国内外から情報・エビデンス提供を呼びかけ、問題の所在、原因、インセンティブ構造を検証

